

ワクチン接種緊急促進事業により
任意予防接種の接種費用の助成を行います

碧南市では、子宮頸がんの予防、細菌性髄膜炎などの予防のため、子宮頸がん予防ワクチン並び^{ヒブ}Hibワクチン及び小児用肺炎球菌ワクチンの予防接種費用の全額を公費助成します。

平成24年3月31日までの期間限定の事業です。

【接種ワクチンと対象及び接種方法】

ワクチンの種類	対象年齢	接種回数
子宮頸がん予防ワクチン	中学1年生～高校1年生相当の女子	3回
ヒブ(インフルエンザ菌b型)ワクチン	生後2か月～5歳未満の乳幼児	接種開始年齢により1～4回
小児用肺炎球菌ワクチン	生後2か月～5歳未満の乳幼児	接種開始年齢により1～4回

※接種開始年齢により接種パターンは異なります。各ワクチンの説明欄を参照してください。

【助成対象者】

- ・接種時点で、碧南市に住民票がある方または、外国人登録している方

【受け方】

- ・指定医療機関予約後、必要なものを持ち接種（下記参照）

【ワクチン接種医療機関】

- ・碧南市指定医療機関（一覧表参照）

【ワクチン接種助成期間】

- ・平成23年1月11日～平成24年3月31日

※標準的な接種間隔で接種をすすめてもらいますが、平成24年3月31日までに必要な回数を接種できない場合も考えられます。助成期間以降、追加の接種を行ったときは、全額自己負担になりますので、ご了承下さい。

【接種における必要なもの】

- ・接種券（個人名の入っているもの） ・健康保険証 ・元気っ子医療証（ある方のみ）
- ・母子健康手帳

※接種を受けるには、碧南市が発行する「接種券」が必要です。
接種券の交付申請の際は、印鑑と母子健康手帳をお持ち下さい。

平成22・23年度 指定医療機関一覧表

医療機関名	住所	電話番号	子宮頸がん	ヒブ	肺炎球菌
あおい皮膚科クリニック	白砂町3-27	91-7201	○	○	○
板倉医院	浅間町1-89	41-0900	○	○	○
岡村産科婦人科	沢渡町29	41-2726	○		
長田医院	源氏町4-36	42-1200	○		
上平整形外科・内科	野田町52	41-4555	○		
小林記念病院	新川町3-88	41-0004	○		
小林クリニック	立山町1-10	43-0388	○	○	○
小町こどもクリニック	三宅町1-80	46-5885	○	○	○
さかべ医院	志貴町2-86	41-1923	○	○	○
作塚杉浦クリニック	作塚町3-10	42-5327	○	○	○
新川中央病院	松江町6-83	48-0009	○	○	○
杉浦医院	音羽町2-6	41-0019	○		
高橋医院	末広町2-31	42-2333	○	○	○
永井小児クリニック	栄町2-69	41-0202	○	○	○
にしばたクリニック	札木町2-74	42-2000	○	○	○
原田医院	湖西町1-50	46-3655	○		
平岩医院	中山町6-55	48-3434	○		
碧南市民病院	平和町3-6	48-5050	○	○	○
堀尾医院	新川町5-108	48-0633	○		
みどりの森クリニック	向陽町1-41	43-3773	○	○	○
もぎ内科クリニック	中山町1-25	46-6660	○	○	○
山中従天医館	東浦町2-85	41-0707	○		
わしづかクリニック	旭町4-32-1	45-2535	○	○	○

お問い合わせ先：碧南市保健センター

電話 0566-48-3751

FAX 0566-48-2165

メールアドレス kenkouka@city.hekinan.lg.jp

【保護者へのお願い】

今回、公費助成をする3つのワクチンは、任意予防接種です。病気から子どもの命を守るためのワクチンとして、今までも世界中で接種が勧められています。

今回、国の政策として、費用助成するものです。接種の際は、病気、ワクチン及びその副反応などについて、医師から十分な説明を受けた後、接種を行うようにして下さい。

予防接種による健康被害に対する救済は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が実施する医薬品副作用被害救済制度、碧南市が加入している全国市長会予防接種事故賠償補償保険で対応していきます。

子宮頸がん予防ワクチンについて

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルス感染が主因で発症することが明らかになっています。

過去20年でみると、子宮頸がんは20～30歳代に急増しています。ヒトパピローマウイルスは、女性の約8割が一生に一度は感染し、また感染しても9割以上は体内から自然消滅すると言われていたほど、とてもありふれたウイルスです。ワクチン接種で、約15種類ある発がん性HPVのうち、発症の7～8割の原因とされているHPV16型、18型の感染による子宮頸がん及びその前がん病変に対して高い予防効果があり、約6～7割が予防できるといわれており、10代前半に接種することが推奨されています。

1～2回の接種では十分な抗体ができないため、半年の間に3回の接種が必要です。

*碧南市では、20歳以上の女性に対して、子宮がん検診を実施しています。

ワクチンを接種したからといって、すべての発がん性HPVの感染を予防できるわけではありません。20歳になったら、1年に一度は検診を受けましょう。

接種回数 3回（ワクチンの有効性を担保するために必要な回数です。）

*2回目は1回目接種の1か月後に、3回目は1回目接種の6か月後に接種します。



ヒブワクチンについて

乳幼児の細菌性髄膜炎をおこす細菌はいくつかありますが、原因の半分以上を占めているのが「インフルエンザ菌b型(略して^{ヒブ}Hib)」と呼ばれています。ヒブは冬に流行するインフルエンザウイルスとは全く別のものです。また、多くの細菌やウイルスとは異なり、ヒブは乳幼児に感染しても抗体(免疫)ができず、繰り返し感染することがあります。

ヒブによる細菌性髄膜炎は特に生後3か月から2歳になるまでの乳幼児にかかりやすいといわれています。

*細菌性髄膜炎:脳や脊髄を包んでいる膜を髄膜といい、この髄膜に細菌が感染して炎症がおこる病気が髄膜炎です。細菌性髄膜炎の初期症状は発熱、嘔吐、不機嫌、けいれんなどで風邪などの他の病気の症状と似ているため、早期に診断することが難しい病気です。日本では毎年約1,000人の子どもがヒブや肺炎球菌による髄膜炎にかかり、うち3分の1くらいが命を奪われたり、重い障害が残ります。

ヒブワクチンは、規定の接種を受けた人のほぼ100%に抗体(免疫)ができ、ヒブ感染症に対する高い予防効果が認められています。

接種時期 接種可能年齢: 生後2ヶ月～5歳未満

※接種回数は、接種開始時期により異なりますので、ご注意ください。

接種開始年齢	接種回数
2か月～7か月未満	初回免疫: 4～8週間間隔で3回 追加免疫として3回目の接種から約1年後に1回
7か月～12か月未満	初回免疫: 4～8週間間隔で2回 追加免疫として2回目の接種から約1年後に1回
1歳以上5歳未満	1回接種

小児用肺炎球菌ワクチンについて

肺炎球菌は文字通り、肺炎の原因になる細菌で、多くの子どもの鼻やのどにいる身近な菌です。他にも、細菌性髄膜炎、菌血症、中耳炎といった病気を起こします。細菌性髄膜炎の原因菌のうち、肺炎球菌が2割を占めています。肺炎球菌による髄膜炎は約半数が0歳児でかかり、それ以降は年齢とともに少なくなりますが、5歳くらいまでは、かかりやすい年齢といわれています。

*菌血症:血液の中に菌が入り込むこと。放っておくと、血液中の菌がいろいろな臓器にうつり、髄膜炎など重い病気を引き起こす心配があります。

肺炎球菌ワクチンの接種により、細菌性髄膜炎、肺炎、菌血症、潜在性敗血症、難治性の中耳炎などを予防します。

接種時期 接種可能な年齢:生後2か月～9歳以下

※接種回数は、接種開始時期により異なりますので、ご注意ください。

接種開始年齢	接種回数
2か月～7か月未満	初回免疫:27日以上の間隔で3回(12か月未満に完了) 追加免疫として1回(標準は12～15か月齢) ※3回目の接種から60日以上あけて
7か月～12か月未満	初回免疫:27日以上の間隔で2回 追加免疫として1回(12か月齢後) ※2回目の接種から60日以上あけて
1歳以上2歳未満	2回接種(60日以上あけて)
2歳～9歳以下	1回接種

